学校教育目標：よりよく生きぬく釜っ子《よく考える子・たくましい子・思いやる子》

釜小だより

瑞浪市立釜戸小学校　学校だより　NO３
令和　６年　５月３１日（金）
６月　校　長　　山　田　隆　二

児童の主体性が見られた体育発表会

私は児童の「主体性」を大事にしたいと願い、学校の経営方針に位置付けています。「主体性」とは与えられた選択肢から選び取るのではなく、その場で目にした状況から、自分なりの判断をして、「こうした方がよい」と自分の行動を、自分の責任で決めることです。

体育発表会の一場面です。テントの中で自分の出番を待つ子たちが座って話していました。ある児童が「応援しよっ！」と声を発しました。その言葉に賛同したのか、個人走で、紹介の名前が呼ばれるたびに自分のチーム（団）の子に「がんばってぇー」と大きな声と拍手を送っていました。その声はすぐに大声援になりました。もしかしたら、「応援しよ！」の声に対して「なんで？」となったかもしれません。思い切って自分で判断し、声を出しました。結果、その応援の声は相手の団席にも届き、双方で応援する声が響き合いました。

担任は係会の動きや、自分の学年の競技、演技を見守るためほとんど団席に来ることはありませんでした。先生に指示されて発せられた声ではなかったのです。そうやって子供たちの「こうした方がよい」という判断で生まれた行動（応援）が広がりました。とても感動的な姿でした。学校では普段から、何でも指示をするのではなく、自分の行動を選び取ることができるよう「どうするとよいのかを考えさせる」という構えで取り組んでいます。「オットセイ理論」もこのことと結び付けられますね。（R5,12 月学校だよりから）ご家庭でも、子供たちの姿に「自分で決めて行動したんだな」と思われたら「おお！〇〇したんだね」と言葉をかけてあげてください。

朝のドッジボールで見られた姿

子供たちは毎朝、運動場が雨でぬかるんでいない限りドッジボールをやります。きちんとしたルールの上で成り立つものではなく、何となく始まり、チャイムと同時に終わるものの、どちらのチームが勝った、負けたということなく終わります。また、１年生から６年生までが１つのコートに入り混じって行われます。６年生のＡくんは体が大きいだけでなく、ものすごいボールを投げます。私もこれまで何回当てられたことか…そのＡくんが投げたボールがねらいとは違った下級生のＢくんを直撃しました。Ａくんは血相を変えてＢくんに走り寄っていき「大丈夫？ごめんね！」と言葉をかけました。Ａくんが本気になって謝り、心配したことがＢくんには安心感につながりました。Ｂくんは痛みを忘れ、笑顔で「大丈夫やよ」と返しました。Ａくんもその返事に安心した表情でした。ボールを当ててしまった子、当たってしまった子の二人だけでなく、周りの子たちもその光景を見て笑顔になりました。朝の短いほんの一場面ですが、「心が育ってきているな！」とうれしく思いました。そのことを保護者の方に話すと「釜戸の子は本当にやさしいよ」と言われました。釜戸の環境が人を作っているのです。今後も、地域、家庭、学校の「チーム釜小」で子供たちを育てたいと思います。